

企業・事業体向け SDG インパクト基準—実践のための 12 の行動

| テーマ | 企業・事業体の行動 |
|--------------|--|
| 戦略 | 1. 事業に責任を持ち持続可能な形態で運営する。積極的に SDGs に貢献し、最善のインパクトを出す。 |
| 戦略 | 2. ステークホルダーにとって、そして SDGs の達成に向けて何が重要か、また組織が現在どの領域でインパクトを生み出しているかを把握する。そうすることで将来、価値の高いインパクトをどの領域で発揮できるかを見極める。 |
| 戦略 | 3. インパクトを組織のパーパスと戦略に組み込む。 |
| 戦略 | 4. 一体化したパーパスと戦略に沿って、インパクト目標を設定する。 |
| 戦略 | 5. 最善のインパクトを生み出すため、必要に応じて戦略とインパクト目標を調整する。 |
| アプローチ（執行・管理） | 6. 組織の文化、構造、能力、システム、インセンティブをパーパスと戦略に合致させる。 |
| アプローチ（執行・管理） | 7. インパクトを効果的に測定するための方法、プロセスやシステムを構築し、意思決定に組み入れる。 |
| アプローチ（執行・管理） | 8. 外部のベンチマーク指標、およびステークホルダーの大グループや小グループの指標に照らして、重要なインパクトを長期的に評価、比較、モニタリングする。インパクト拡大のための選択肢を設定し、どれを採用するか決定する。 |
| アプローチ（執行・管理） | 9. 改善を続け、インパクトマネジメントのあり方を刷新するためのプロセスを、必要に応じて業務に組み入れる。 |
| 透明性 | 10. 責任あるビジネス慣行、サステナビリティ、SDGs への積極的な貢献をどのように意思決定とパフォーマンス報告に組み込んでいるかを開示する。 |
| ガバナンス | 11. 責任ある事業活動とインパクトマネジメントの取り組みをガバナンスの枠組みに組み込む。 |
| ガバナンス | 12. 組織のガバナンス機構が責任を持って組織運営の模範を示す。 |

企業・事業体向け SDG インパクト基準—企業等の行動と対応する推奨指標

| | 戦略 | 戦略 | 戦略 | 戦略 |
|----------|---|--|---|--|
| 企業等の行動 | 1. 事業に責任を持ち持続可能な形態で運営する。積極的にSDGsに貢献し、最善のインパクトを出す。 | 2. ステークホルダーにとって、そしてSDGsの達成に向けて何が重要か、また組織が現在どの領域でインパクトを生み出しているかを把握する。そうすることで将来、価値の高いインパクトをどの領域で発揮できるかを見極める。 | 3. インパクトを組織のパーパスと戦略に組み込む。 | 4. 一体化したパーパスと戦略に沿って、インパクト目標を設定する。 |
| 対応する推奨指標 | 責任ある持続可能な事業運営、ならびにSDGsへの積極的な貢献が事業目的の中心であると定める (1.1.1) | グローバル、国、地域におけるSDGsの重要課題やSDGs間のギャップと相互依存性を含め、持続可能な開発状況に対する理解を深める (1.1.4、1.1.2) ステークホルダーと関わることにより、ステークホルダーにとって何が重要かを把握する (1.1.5) バリューチェーン全体の様々なステークホルダー（軽視されがちなグループを含む）に対する現在および将来の潜在的インパクトを示し、ステークホルダーにとっての重要項目に基づいて重大なインパクトを特定する (1.1.6) | 持続可能性、およびSDGsへの積極的な貢献を実施可能なステップと事業戦略につなげるため、インパクト目標達成のための戦略を構築する (1.1.1) 人権、プラネタリー・バウンダリー、その他の責任あるビジネス慣行への尊重姿勢をアプローチに組み込む (1.1.3) ビジネスモデルとパートナーシップ・アプローチを評価する (1.1.7) 戦略とインパクト目標を事業計画に統合し、十分な予算とリソースを配分して、戦略計画およびインパクト目標を達成する (1.1.10) | すべての重大なインパクト（ネガティブなものも含む）や分野横断的な課題に対し、目標を迅速に達成するために求められるベースライン、最低限の基準値、変動率など意欲的で測定可能な目標を設定する (1.2.1、1.2.2、1.2.3、1.2.5) SDGのアウトカム領域とABCインパクト分類に基づいて、目標を具体的に示す (1.2.4) インパクトが予想通りに発生しないリスク（ステークホルダーに対するものも含む）を評価する (1.1.8、1.1.9) |

| | 戦略 | アプローチ（執行・管理） | アプローチ（執行・管理） | アプローチ（執行・管理） |
|----------|---|--|--|---|
| 企業等の行動 | 5. 最善のインパクトを生み出すため、必要に応じて戦略とインパクト目標を調整する。 | 6. 組織の文化、構造、能力、システム、インセンティブをパーパスと戦略に合致させる。 | 7. インパクトを効果的に測定するための方法、プロセスやシステムを構築し、意思決定に組み入れる。 | 8. 外部のベンチマーク指標、およびステークホルダーの大グループや小グループの指標に照らして、重要なインパクトを長期的に評価、比較、モニタリングする。インパクト拡大のための選択肢を設定し、どれを採用するか決定する。 |
| 対応する推奨指標 | 組織内外の状況の変化、実際のインパクトに関する情報が明らかになるのに伴い、戦略とインパクト目標の見直しや調整を行う（1.1.11） | <p>人権、プラネタリー・バウンダリー、その他の責任あるビジネス慣行を尊重する姿勢を方針や手順に組み入れる（2.1.1、2.1.2）</p> <p>意思決定へのステークホルダーの関与、政府機関との連携、同業他社やパートナーになりうる組織との協働を通じた合同解決策の模索などにおいて、アウトサイドインの手法を構築する（2.1.3、2.1.4）</p> <p>能力開発を進め、説明責任を組み入れ、インセンティブを目的と戦略に合致させる（2.1.5）</p> | <p>意思決定に役立つ測定基準を特定するアプローチを構築し、インパクトデータを適切に収集、検証、管理、使用する（2.1.6、2.3.2）</p> <p>インパクトを評価、モニタリング、管理する方法を策定する（2.2.1、2.2.2、2.2.3、2.3.1、2.3.3、2.3.4）</p> <p>意思決定に必要な情報量を決定する（2.2.4）</p> <p>インパクトリスクを管理するために、第三者によるインパクト評価が必要な時期を決定する（2.2.6）</p> <p>インパクト情報がビジネスの意思決定、進行中のインパクトマネジメント業務および継続的な改善につながるように、結果と学んだ知見を把握する（2.2.7、2.3.5）</p> | <p>7で構築した手法に基づき、重大なインパクトを評価、比較する（2.1.6、2.2.1、2.2.2、2.2.3、2.2.4、2.2.6）</p> <p>インパクトとSDGsへの積極的な貢献を最適化するための選択肢を選ぶ（2.2.5）</p> <p>予想されるインパクト、ベースライン、反事実、最低限の基準値に対する実際のインパクト・パフォーマンスをモニタリングし、インパクトとSDGsへの貢献を最適化するために行動する（2.3.1、2.3.2、2.3.4）</p> <p>予想アウトカムからの乖離を分析し、対処する（2.3.3）</p> |

| | アプローチ（執行・管理） | 透明性 | ガバナンス | ガバナンス |
|----------|---|---|--|--|
| 企業等の行動 | 9. 改善を続け、インパクトマネジメントのあり方を刷新するためのプロセスを、必要に応じて業務に組み入れる。 | 10. 責任あるビジネス慣行、サステナビリティ、SDGs への積極的な貢献をどのように意思決定とパフォーマンス報告に組み込んでいるかを開示する。 | 11. 責任ある事業活動とインパクトマネジメントの取り組みをガバナンスの枠組みに組み込む。 | 12. 組織のガバナンス機構が責任を持って組織運営の模範を示す。 |
| 対応する推奨指標 | インパクト結果、知見、持続可能な開発状況の変化を念頭に置き、長期的にインパクトマネジメントの実践を精緻化する（2.1.7、2.3.5） | SDGs 情報開示勧告、ステークホルダーのニーズ、関連法規に従って開示・報告をする（3.1、3.3、3.5） インパクト・パフォーマンスを一貫した方法で状況に応じて発信する（3.2） 人権や、責任あるビジネス慣行に関するその他の方針を開示する（3.4） インパクトおよび持続可能性に関する報告書の保証を受け、推奨項目を実行する（3.6） | 組織のガバナンス機構は持続可能性と SDGs への積極的な貢献が、企業のパーパス、戦略、リスクマネジメント、意思決定の実践、責任あるビジネスおよびインパクトマネジメントの実践やパフォーマンスに組み込まれているかを監督する（4.1） 企業の親会社および持ち株会社、あるいはそのいずれかは本基準が示す要件に則り、ガバナンスと責任あるビジネス慣行に関する方針、実践、パフォーマンスを保持する（4.3） | 組織のガバナンス機構は、持続可能な開発にふさわしい能力を有する多様な人材で構成されており、透明性のある事業運営を行い、影響を受けるステークホルダーに代わって行動することの重要性を認識している（4.2） 組織のガバナンス機構は、経営陣に対し、責任あるビジネスとインパクトマネジメントの実践（企業のバリュー、目的、方針に沿う）およびパフォーマンスに関する責任を負わせる（4.2） |